Series 37
オーディオ
つれづれの記

洋楽、オーディオ事始め

川野辺　清治
2024 年 5 月入会

＜はじめに＞

1947 年生まれで、取手市に住んでいます。雑誌「アナログ」でこの会の存在を知り、入会させていただきました。今回は、自己紹介を兼ねて、音楽を好きになったきっかけ、どうしてオーディオに興味を持つようになったのかなど、過去の記憶を思い起こしながら述べてみたいと思います。また、アンプなど自作する技量はまったくありませんが、個人的にオーディオにこだわっている点を少しお話したいと思います。

＜音楽編①～1960 年代（１）～　洋楽との出会い＞

当時、茨城の田舎町の高校生だった私の耳に聞こえてくるのは、舟木一夫の「高校三年生」や橋幸夫・吉永小百合の「いつでも夢を」など日本の歌謡曲ばかりで、音楽そのものにも特に関心はありませんでした。そんな中、同級生のひとりが、ある日、私を自宅に招いてくれ、当時めずらしかった家庭用ステレオでいろいろな欧米の音楽を聞かせてくれました。そして、彼曰く「いま海の向こうでは、大変なことが起こっているみたい！リヴァプール・サウンドといって、今までとまったく違う音楽が向こうの若者たちを熱狂させているようだ！」「また、アメリカの pops と違うフランスやイタリアの女の子の歌もすごく素敵だよ！」。この話を聞いてから、ラジオの洋楽番組を熱心に聞くようになり、1960 年代の半ばは、ヨーロッパから押し寄せるブリティッシュロック、フレンチ pops、イタリアン pops に夢中になって青春を過ごしました。

さらに、ラジオやシングル盤を聴いているだけでは物足りなくなって、ぜひ本物の演奏を聴きたいと思うようになり、1965 年に来日した、ジ・アニマルズ、ピーターとゴードン、ジリオラ・チンクエッティなどのコンサートを見に新宿の厚生年金会館まで通ったものです。そして、その翌年に来日した、ザ・ビートルズの武道館コンサートは、今でも圧倒的に強く印象に残っています。

＜音楽編②～1960 年代（２）～ザ・ビートルズ　伝説の武道館コンサート＞

幸運なことに、1966 年 6～7 月に来日したザ・ビートルズのコンサートチケットを手に入れることができました。その時は、天から降ってきたプレゼントだと思いました！当時、

チケットを入手するには、主に①読売新聞に応募してチケットを購入するか②ライオン歯磨きの空き箱を送って抽選でチケットをプレゼントされるかのいずれかの方法でしたが、運よく②で手に入れることができました。コンサートは、1966 年 6 月 30 日~ 7 月 2 日の 3 日間、計 5 回でしたが、私が見ることができたのは、7 月 1 日の夜の部でした。連日、テレビのワイドショーが、このニュースを取り上げたことも影響してか、とにかく九段下の駅付近から会場までのルートを警官隊がずっと並ぶという異様な光景で、会場の中でも、前座のドリフターズの演奏が終了すると、通路すべてに警官隊が座り込むという異常な雰囲気の中、演奏が始まりました。ビートルズの演奏はわずか 30 分でしたが、世界一超有名なグループの演奏を目の前で見ることができ、すっかり夢の中にいる気分でした。

＜音楽編③～1970 年~1980 年代以降（抄）＞

この時期以降、オーディオへの興味をもち始めたことで、音楽に関しては、フォーク、ジャズ、クラシックの有名な作品などいろいろな曲を LP レコードで広く聴くようになっていきました。また、菅野沖彦氏の録音による AUDIO LAB のシリーズ、長岡鉄男氏の「外盤 A 級セレクション」、そしてキングレコードの「スーパーアナログディスク」などの高音質ソフトを少し収集するようにもなりました。

これ以外については、紙面の都合上、省略させていただきます。

＜オーディオ編①~1970 年代後半から　～オーディオ開眼！＞

70 年前半までは、一般家庭用のステレオでレコードを聴いていました、とくに音質などについてそれほど関心はありませんでした。転機になったのは、社会人になって、都内のある職場に、配置になったときです。いま振り返っても不思議なことだったのですが、私の机の周りにオーディオファンと言っていい同僚が 3 人もいました。まったくの偶然だったと思います。休憩時間になると、私の周りで、「カーリッジは、MC、MM のどれがよかったか？」「アンプは、トランジスタか、真空管か？」など、自分にはまったく訳の分からない議論が飛び交っていました。1 年ほど経ったころ、私もその話にだんだん感化され、自分もオーディオ・コンポーネントなるものを揃えてみたくなりました。そして、はじめて購入したラインアップは、アンプはサンスイ AU-D907、スピーカーはオンキョーM-3、レコードプレイヤーはテクニクス SL-1200 だったと思います。

＜オーディオ編②~1980 年代から　～オーディオの世界に彷徨う＞

80 年代あたりから少し耳が肥えてきたのか、もっと音の良い製品が欲しくなりました。当時、あちこちにあった、ビクター、日立、オンキョーなど国内メーカーのショウルームやオ

ーディオユニオン、ヤマギワなど専門店の試聴室、そして（職場の近くで神保町にあった）ジャズ喫茶「響」などを歩き廻りました。

とくに、ある専門店で聴いた Rogers の LS3/5A という BBC のモニタースピーカーの音が自分に合っていると思い購入しました。そして、最終的には、この Rogers の LS3/5A の音を進化させた？イギリスの Linn Products という会社の製品に出会い、現行のシステムとして今も愛用しています。レコードプレイヤーLP12 をはじめ、CD プレイヤー、プリアンプ、パワーアンプ（6 チャンネルマルチ駆動)、スピーカー、フォノイコライザーまで、すべて Linn の製品で楽しんでいます。

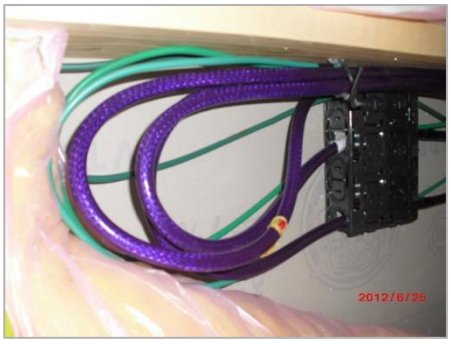
＜オーディオについて、個人的にこだわっていること＞

（1）アース(接地)を徹底する！

メーカー（Linn）の担当者から、「海外製品は、アースを取らないといい音は出ません！」と言われていたので、当初は、1 メートルほどのアース棒を地面に埋め込み対処してきましたが、10 年ほど前、小さな家を建てたのを契機に、徹底したアース(接地)の工事にチャレンジしてみました。庭に 70 センチほど深く穴を掘り、30 ㎝× 9 0 ㎝の銅板を 3 枚敷いて土に埋め、3 系統（プリ、パワー、プレイヤー用）作りました。

（2）電磁波対応のオーディオ専用回路を設ける！

オーディオ専用回路を設けることに大きなメリットがあることは、以前から知っていました。そこで、家を新築した同時期に、まず、F ケーブルを使って、（オーディオ装置のある部屋の壁コンセントまでの）屋内配線をする工事をいったん終えたのですが、その直後、知人から「これからの時代、携帯電話やインターネットの普及でオーディオシステムは電磁波の影響を受ける可能性がある。せっかく専用回路を設けるなら、電磁波の影響を大きく受けないように、（対策を施した）ケーブルがイギリスで製造されているので、それを使ってみてはどうか？」とアドバイスがあり、それを取り寄せて屋内配線の工事をやり直し、アース工事と同様、3 系統（プリ、パワー、プレイヤー用）作りました。



(3)軽量でしっかりしたオーディオラックを使う！

20年前ほどまでは、オーディオラックは一人では持ちあげられないほど、重量級のラックを使用していました。たまたまイギリス製の軽量のラックがあることを知り、試聴したところ、(スピーカーからの振動を抑えられることによる)音の静けさに驚き、すぐ採用することになりました。ただ、何分軽いため「地震の際はどうなるのかな？」という不安はぬぐい切れませんでした。そして、あの3.11のとき、自宅の建物は無事でしたが、オーディオのある部屋では、書棚は倒れ、CDなどが散乱し、手の付けられない状況でしたが、何と軽量のラックは、少しも動いておらず泰然としていました。今後も、安心して使い続けていけると思います。

＜最後に＞

AAFCには、オーディオに熱心な方が多く、また、いろいろなジャンルの音楽に造詣が深い方もいて、早くもたくさんの刺激を受けています。これからは、新たな気持ちで、再びオーディオと音楽に向き合っていきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。